

項目		重点目標 (○:市の重点目標 ◇:学校の重点目標)	キーワード	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校運営協議会委員(評価者)の意見等
学校運営	教育課程	○特色のある教育課程を工夫するとともに、PDCAサイクルを意識し、評価改善に努める。 ◇PDCAサイクルを生かした教育課程の質的、量的な管理を行う。	カリキュラムマネジメント PDCAサイクル 社会に開かれた教育課程 教科等横断的な視点	・地域の教育力を生かした活動を検討する。 ・学校行事の反省や改善点を毎月確認することで、全職員で共通理解を図ることができた。 ・行事反省をデータで入力し、ペーパーレス化を図った。	B	・地域施設等(市や県の見学地、学校周辺)をさらに積極的に活用する。 →旧七合中学校に民俗資料、昔の道具が展示、収蔵されている。今年度、3年社会科見学で活用した。	・新型コロナが落ち着いたため、学校に外部の方が来校できるようになり、以前のような「つながり」が感じられるようになってきた。 ・なかなか(委員の方は)学校に来る機会がない。1、2年経つと児童や学校の様子の変化に驚きを感じることもある。
	組織運営	○校務のバランスを考えた人材配置に努める。 ◇健全な児童を育てる職員研修の工夫を行う。	適材適所 研修の充実 働き方改革	・隔週で情報教育プチ研修を実施した。ICTの効率的な活用のため、今後も続けていく。 ・働き方改革の観点から、放課後の活用を検討していく。	B	・さらに職員の特性を生かし、適材適所となるようなバランスの取れた校務分掌となるよう配慮する。 ・成績処理で忙しくなる時期などは、ゆとりを持って職務に当たれるような研修計画を立てる。	・ボランティア等で来校した時に、児童が笑顔で迎えてくれるのが楽しみである。 ・月一回出される「学校だより」が細かく書かれてあるため、学校の様子がとてもよくわかる。
	環境整備	○校内外の整理整頓、環境整備に努める。 ◇児童の学習環境の整備と学校設備等の整理に努める。	施設利用 安全点検 教室配置	・活動計画に沿って進められた。 ・教室や教材室の備品等の整備が必要。	B	・環境整備については、保護者や地域ボランティア等に協力を仰ぐ。 ・通常教室の机・ロッカー並びに特別教室や準備室の教材等について、使用後の整理整頓に努める。	・烏山は、人や自然などの資源が多いと思う。学校区の枠を超えて互いの地区の様子が知れると良いのではないか。(オオムラサキ、国見、山あげ等) ・旧七合中の郷土資料館はぜひ今後も利用するとよい。
	地域連携	○地域連携教員を要として、地域とともにある学校づくりに努める。 ◇学校から情報発信と情報収集を行い地域社会と好ましい関係をつくる。	地域とともにある学校 コミュニティ・スクール 地域コーディネーター	・学校だより、ホームページ等で情報を定期的に発信した。今後、さらにわかりやすく情報の発信に努めることが必要。 ・ボランティアの方々に、読み聞かせ・茶道・ミン・マラソン大会等の活動で協力を得た。児童一人一人に温かい声かけ、ご指導をいただき、子どもたちの意欲も向上するなど、高い教育効果が得られた。	A	・月行事予定表をホームページに掲載し、地域、保護者の方が確認しやすいようにする。 ・地域ボランティア、シルバー人材と連携を図り、さらに学校環境整備や授業支援に努めていく。	・ジオパーク(例:仲山の地層)は続けると良いと思う。
知の教育	各教科等・学習指導	○学ぶ意欲を引き出し、主体的に学ぶ児童生徒の育成に努める。 ◇自ら学ぼうとする意欲を育てる学習指導の工夫をする。	主体的・対話的・深い学び	・授業において、「めあて」「まとめ」「振り返り」を行い「わかる授業」を実践するように努めてきた。主体的な学びにつなげることが課題である。 ・児童のアンケートには「先生は、勉強でわからないことがあると、ていねいに教えてくれる」に対して、全児童が肯定的に答えている。	B	・「めあて」の設定、授業のまとめについては、今後研修を通して学び続けていく。 ・自主学習ノートの取組の内容がさらに充実したものになるようする。(1学年上のノートを下の学年が見て参考にするような機会を設ける等。)	・先生方の努力を感じる。 ・他校の取組として、自主学習ノートが掲示してあった。 ・他校とオンラインで子どもたちの交流などができるとよいと思う。
	情報教育	○一人一台の情報端末の有効活用に努める。 ◇目的に応じたタブレット活用の工夫を行う。	プログラミング教育 情報活用能力	・タブレットを使った効果的な指導法のミニ研修は非常に役に立った。校内研修を継続実施していく。	B	・家庭での活用例や使用実績を確認し合い、情報主任が中心となり共通理解を図る。 ・まなびPCの授業での活用の仕方について、情報交換をする機会を増やす。他校での実践事例も取り入れる。	

	国際理解教育	○英語に触れ、世界を学ぶことで、豊かなコミュニケーション能力の育成に努める。 ◇身近な英語に親しみながら、コミュニケーションを図る資質・能力を育てる。	SDG's 異文化理解 英語コミュニケーション	・ALTとの交流やオンライン英会話を実施し、よい発表の機会となり、コミュニケーション能力の向上が図れている。	A	・現状を維持する。さらにまなびPCの使い方を充実させていく。	
心の教育	児童・生徒指導	○自己指導能力の育成を図り、課題を解決できる児童生徒の育成に努める。 ◇学びに向かう集団作りを意識して、学業指導の充実を図る。	いじめ 不登校 自己指導能力 キャリア教育	・教職員が子どもの話に耳を傾け、児童理解に努めることができているため、児童も落ち着いて生活できている。 ・ケース会議や児童打合わせ等で、細やかな情報を共有できているため、問題の未然防止に繋がっている。	B	・年度当初に、学校が楽しく、安全に過ごすための約束について確認する。 ・児童会活動に、「あいさつ運動」や「時間を守る」など、自分たちで生活しやすい環境づくりに努める取組を考え、実践していけるような機会を位置付ける。	・教師と児童のつながりは大事。 ・子どもが明るいのが何よりではないか。 ・今年度は、職員の異動が多く、学校として大変な1年だったのではないかと思うが、先生方のまとまりを感じる。
	特別支援教育	○共生社会に向け、自分の意見を持ち、他者の意見を認め合う雰囲気づくりに努める。 ◇個々の児童の特性の理解とそれに応じた具体的な支援の充実を図る。	インクルーシブ ユニバーサルデザイン 合理的配慮 自立活動	・本年度は、児童の実態に応じた環境をつくることができ、効果があった。	A	・保護者との連携を密にして、児童の成長を促していく。	
命の教育	健康教育	○自分の健康を管理し、健やかに生活する児童生徒の育成に努める。 ◇健康生活に関する実態を把握し、日常生活の問題点や課題を見つけ、自ら考え行動できるようにする。	保健教育 保健管理	・年間行事のマラソン大会やなわ跳び週間等を体育科と連携して実施し、体力づくりの向上につなげた。 ・教師も外に出て一緒に活動したことにより、児童の意欲も高まった。 ・衛生面の指導（ハンカチ、爪等）が必要な児童が見られる。	B	・さらに「楽しい、できた」を実感できる授業づくりに努める。 ・家庭と連携した指導を行う。	・避難訓練は、指導者を呼んで実施するとよい。警察等を有効活用する。R4年度は不審者役をやった。（ボランティア） ・登校班の人数に、規定はあるのか。今後児童が減っていくことも想定されるので、その際の安全対策が大切になると考える。
	安全教育	○危機意識を高め、安全な生活について判断・実践できる児童生徒の育成に努める。 ◇安全についての知識を高め危機回避能力を育成する。	危機管理 生活・交通・災害安全	・登下校において児童が自ら危機意識が高められるような指導をしていく。 ・安全点検、避難訓練を定期的実施した。今後も、関係機関とも連携して実施していきたい。	A	・登校班会議を定期的開催し、バス乗車や正しい登下校の仕方についてさらに意識付けをする。 ・事前や事後の指導、ふり返りの充実を図る。 ・R6は、引渡訓練を実施予定。	
	食に関する指導	○食への関心を高め、健康維持に励む児童生徒の育成に努める。 ◇衛生的な食生活の習慣形成に努める。	給食管理 アレルギー	・アレルギー対応は、職員間で情報共有を図り、徹底できた。食事のマナーについては、指導を継続した。	B	・学校給食週間で、各学年でマナー指導を充実させる。 ・配膳の仕方も含めた給食指導のあり方を年度初めに共通理解を図る。	